自然保育推進事業　活動報告書

1、団体名

社会福祉法人みどり会　みどりの森みらい保育園　　広島市西区福島町 2-24-48

2、今年度の活動概要

5 歳児は自然保育活動のまとめとして、毎年 3 月に宮島の弥山登山を行っています。普段の活動では、西区己斐の旭山神社から高須台へ抜けるコースを歩いたり、保育園から竜王公園までの太田川の遊歩道 4km を歩いたり、東区東照宮から仏舎利塔への山道を歩いたりと、長い道のりを「歩く」ことを重視した活動を取り入れています。

「歩く」ことを重視した保育では、足腰を強くし体力がついてきます。また、虫，植物など自然の中で生きているものに出会い、さまざまな出会いや発見があります。そして、広い空間の中でリラックスし、心と体を開放することができます。たくさん歩くことでお腹も空き、食欲も増します。このような、子どもにとって五感を働かせることで得る刺激は、脳の発達には欠かせないことです。みどりの森みらい保育園ではこの「歩く」という活動を保育の柱として大切にしています。

行事計画案

園長	主任	担当

行事名　宮島　弥山登山		場所：廿日市市宮島町
実施日　平成 30 年　3 月　26 日　(月)		対象：5 歳児 21 名
ねらい	○登山することを通して、自分の力で登りきった達成感・更なる自信へとつなげる。 ○公共交通機関やお金の利用の仕方を、実体験を通して知る。	
時間	内容	準備・環境構成・配慮
8：10 8：25 8：30 8：40 9：00 9：21 9：40 9：50 10：10 12：30 13：30 13：50 14：10 14：20 14：30 15：00 15：30	○登園する。 ・健康状態について把握する。 ・投薬の確認をする。 ※登園した子どもからおにぎりを作る。 ○ひかり組の部屋に集まる。 ○保育園を出発する。 ・人数確認をする。 ○園バスに乗車する。 ○宮島口到着 　フェリー乗り場に行く。 ○フェリー出発（一人：９０円） ○フェリー到着 ・大聖院へ移動する。 ○登山スタート ・人数確認 ・水分補給、休息をとる。 ○山頂到着 ・山頂からの景色を楽しむ。 ・お弁当を食べる ○ロープウェイに乗る。（一人：５００円） ○到着する。 ・フェリー乗り場まで歩く。 ○フェリー出発 ○フェリー到着 ○園バス駐車場まで歩く。 ○宮島口出発 ○保育園に到着する。	引率：森脇、竹本、溝上 【持ち物】 ○園児 リュック、水筒、敷物、着替え、タオル、帽子 ビニール袋、レジャーシート ○保育士 携帯、救急セット、カメラ、ティッシュ、タオル、着替え、ビニール袋、水、虫よけスプレー 保険証コピー【服装：みらい T、ジャージ】 ・事前にどんな場所へ行くか子ども達に伝え、期待をもって参加することができるようにする。 ・当日登園してきた子どもから、自分のおむすびをにぎる。食べられる量などを考え、自分なりに作ることを楽しめるよう見守る。 ・園バスの中で、子ども達がしっかり目的をもち、弥山登山できるような言葉がけをする。 ・登山するときには、間が空くこともある為、職員同士連携を取り合い、人数確認をしながら個々のペースで歩き進めることができるようにする。 ・歩き疲れ立ち止まることも予想される為、定期的に休息を取り、水分補給をしながら気持ちを切り替えていけるようにする。 ・一人ひとり自分の力で歩く姿を見守ると同時にその姿をしっかり認めていく。 ・山頂に着いたときには、大人が先に言葉を発するのではなく、子ども自身の言葉で気持ちを表現し、『登ったぞ！！！』という実感が持てるようにする。 ・おにぎりを食べるときなど、なごやかな雰囲気を作りつつ、子どもの体調の変化、疲れ感などを職員同士で把握していく。 ・時間に追われず、一日を十分に使って、じっくり味わえる日となるようにする。 ・帰園が遅れる場合には、保護者に連絡を入れ、協力してもらう。

3、5 歳児　弥山登山

平成 30 年 3 月 26 日に 5 歳児 21 名と引率保育者 3 名で標高 535mの弥山山頂を目指し、登山にチャレンジしました。世界遺産日本三景「宮島」の大自然の中で、様々な体験・経験をしながら自分の足で 2 時間半かけて、山道を登りきりました。

登山途中、しんどいときは休憩しながら励まし合い、山の湧水を見つけると「冷たーい」と顔を洗い、「まむしに注意」の看板を見つけると「この穴はへびの家じゃ」とへび探しが始まることもあったり、下山される登山者（外国の方が多い）と「ハロー」とコミュニケーションを取りながら、山頂を目指しました。

山頂に到着し登り切ったときの子どもたちの表情はとても晴れやかで、山頂から見る景色に「おーい」と叫ぶ子どももいました。しんどいことを諦めず、最後まで登り切った達成感を 5 歳児 21 名は感じてくれたことと思います。

大きくなったときに、人間はいろいろと人生の壁にぶつかったりする日があると思います。そんなときに、このような幼少期に得た豊かな体験・経験こそが「生きる力」になって、人生の壁を乗り越えて欲しいと願っています。

弥山山頂にて